会　議　録

2021年度第1回　伊賀市総合教育会議

　　　　　　　　　　　2021年6月29日（火）10：00

　　　　　　　　　　　　於：成和西小学校

出席者　　　伊賀市長・教育長・教育委員４名

　 関係部局： 副市長・参与・企画振興部長・総合政策課長・産業振興部次長・財務部長

　 教育委員会：事務局長・次長（生涯学習）・学校教育課長・文化財課長・教育総務課長・事務局職員　（計1８名）

協議のテーマ

（１）第2次伊賀市総合計画・第３次基本計画について　（総合政策　課）

（２）GIGAスクールの現況について　（学校教育課）

（３）学校給食に使用する地域食材の活用について　（農林振興課）

進行　　事務局長

内容

　１．市長あいさつ

　２．協議・調整事項

　（１）第2次伊賀市総合計画・第３次基本計画について

教育に関連する部分を中心に説明（総合政策課）

（２）GIGAスクールの現況について　・・・

市小中学校の現状説明　（学校教育課長）

授業参観　　5年生　15名、「算数」

第3限10：45～11：30の一部を参観

　　　参観後の協議　学校長から５年生以外の学年の話など

（３）学校給食に使用する地域食材の活用について

　　伊賀スマイル給食などの取り組みの昨年度の実績と今年度の計画を説明

堀次長（農林振興課）が説明

　　６月２９日は「いがスマイル給食」　12：00**～**試食

　献立は「トンテキ、アスパラとコーンのソテー、けんちん汁、牛乳、麦ごはん」

　　10：00～　開会

事務局長：それでは皆さんお揃いですので、ご案内の時間より少し早いんですけれども、只今から第１回伊賀市総合教育会議を始めさせて頂きます。皆さま朝早くからお集まり頂きまして、ありがとうございます。本日の会議は議事録作成のために録音させて頂きますので、ご了承頂きたいと思います。それでは始めに岡本市長からご挨拶頂きたいと思います。

市長：皆さんおはようございます。この昔の花之木地区、今は成和西という事ですけど、大変歴史豊かなところです。私、何回か見に行ったことあるんですけど、そういう場所で今日は総合教育会議という事で、今一番の懸念事項は新型コロナの感染症であります。その傾向がたいへん変異株が出てきており、その影響が及んできそうな気配があるという事を懸念しております。現実、20代30代感染するという事が多くなってきた中で、家庭内感染という事で子ども達に広がらないか心配するところです。今後、オリンピックや色んな国体やその間に選挙もあるような、解散もあるかもしれませんし。そいう意味では、人流が頻繁になる。蔓延防止は6月の20日で終わったわけでありますけど、そしてまた、リバウンドというものに対する対応、６月３０日で終わるかなというような事も言われておりますが、終わろうが終わろうまいが、しっかりと子ども達をそうした危険から守っていくという事が一番の私たちの課題であるという風に思っています。今日はそんな状況の中、第2次伊賀市総合計画と第3次基本計画についての報告とGIGAスクールの現況について、あるいは、いがっこ給食についても色々と検討もさせて頂きたいなと思っています。よろしくお願いいたします。

事務局長：ありがとうございました。それでは協議調整事項に入ります前に本日の流れを簡単に説明させて頂きます。まず（１）の総合計画につきましては総合政策課長からご説明させて頂きます。それから（２）のGIGAスクール構想の現況につきましては、最初に成和西小学校の校長先生の方から授業の紹介をさせて頂きます。それから教室を移動して頂きまして、授業の参観をして頂く事になります。先に低学年の授業を短時間ですが見て頂きまして、そしてじっくりと５年生の算数の授業を見て頂きたいと思っております。そして戻って頂きましたら、校長先生の方から学校の取組についてご説明頂く事になります。それから（３）の学校給食に使用する地域食材の活用につきましては産業振興部次長からご説明頂きます。なお今日、皆さんにいがスマイル給食をご試食頂く事になるんですけれども、全体のこの総合教育会議を終了してからご試食頂く事になりますのでご了承頂きたいと思います。それでは協議事項に入らせて頂きます。まず初めに第２次伊賀市総合計画、第３次基本計画につきまして総合政策課長にご説明頂きます。よろしくお願いいたします。

総合政策課長：総合政策課の課長の中矢と言います。どうぞよろしくお願いします。第２次伊賀市総合計画第３次基本計画について説明させて頂きます。資料の方、案となっていますが、昨日、議会で可決頂きましたので、出来たてホヤホヤという事で、案というのは消して下さい。この計画ですけども、第２次の総合計画の第３次基本計画ちょっとややこしい立て付けになっているんですけども。第２次というのが伊賀市が合併して10年スパンで見ているのが最初に出てくる第1という意味でございまして、2014年から今回の総合計画始まって、第2次というのがおよそ10年間のスパンとして、3つに区切らせて頂いた最後の今回は第3次の基本計画になるという立て付けになっています。ちょうど岡本市政になってから、2012年にスタートしてからまちづくりをこの計画に基づいて、ベースにしながら進めてきた、そういった計画でございます。今回のこの第3次基本計画は、ちょうどさっきも市長からも話ありましたが、コロナ禍という中で作っていく作業を進めてきたんですけども、特に審議会でのご審議頂いたりするのと並行しながら、住民の皆さんの意見とか地域の声をどうやって拾っていくか、ウェブを使ったりしながら工夫して、やっとここまで来たと、そういった計画でございます。作るときに出来るだけみんなで、市民にみんなで共有できる計画にしやなあかんなという事で、あんまり難しい言葉使いたくないなというような事は心がけようという事で作業を進めたんですけども、中々横文字とか新しい、聞きなれない言葉や特にコロナ禍という中で出てきた言葉などがあります。例えばGIGAスクールとかPFIとかSDGｓとかコロナでクラスターとかそんな新しい言葉も使用されるようになってきて、そういった言葉をこの計画の中でも使わざるを得なかったというような事もありまして、３番資料で用語の解説というのを付けているので何か難しい事があったら確認してもらいながら、計画本来最初に出てきたところでは一番下に用語の解説というのを載せるようにして作りましたので確認の方お願いしたいと思います。それでは今日持ってきた計画、特に教育の分野に関わり深い所を抜粋して持ってきたものですので、出来たら教育に関する部分を中心に説明をさせて頂きたいと思っています。

表紙をめくって下さい。2ページと3ページにわたって目次になっています。4章だけ、はじめにっていう第1章から最後の第4章横断的な取組というこの4章で構成されています。ちょっと飛んで、６ページ開いて下さい。どんな構成になっていて、どんな機関になっているかという事を図でお示しさせてもらっています。今回の第3次基本計画は今年度から4年間令和6年度までの4年間の計画になっています。7ページ以降は前の計画、令和2年度までの第2次の計画の振り返りをずっとしていくという風になりまして。9ページ以降7つの分野に分けて、それぞれ分野ごとの振り返りをしています。上段の方に市民の皆さんの参画度とか、あるいはそれぞれの分野の施策に対してどのぐらい満足されているかという事を見える形にさせて頂いて、下段には具体的にどんな取り組みが出来たかというような事を記載しています。14ページを開いてください。教育と人権の分野の振り返りをしているページになります。まずグラフの方を見てもらうと、全体的な傾向ですけども、市民の満足度は比較的他の分野と比べると、やや高い。でも参画度についてはやや低いようなアンケート結果が出ているというのが見て取れるかなと思います。それから中間のところにある表のとこでは、通し番号の30番のところ。学校教育というところの記載では、学校マニフェストの事とか、郷土教育の冊子「いがのこと」というのを作ったとか、あるいは校区再編の事とか、給食センターの整備の事とか、あるいは32番のところで生涯学習が交流型図書館。それから飛びまして、17ページをお開き頂きたいと思います。昨年度新型コロナの感染症が拡大したという事もあって、その対策どうやってきたのかという事を独立してお伝えをします。4番目のとこで子育て・教育を守るというようなパッケージの中で給食を無償にしたり、子ども達にマスクの配布とか、GIGAスクール構想で学校の通信ネットワークの整備、そういった事に取り組んできた事を書かいています。次、18ページから25ページまで社会情勢の変化という事で、人口減少がどんな風に進んできてしまっているかというような事とか、産業の状況とか所得の状況とか、色んな事をデータで社会情勢の変化という形でまとめています。特に人口減少については、グラフを見てもらえば分かるんですけども生産年齢、あるいは若年層ですね。若者の人口が著しく減ってきている状況というのがうかがえるかなと思います。26ページをご覧下さい。これまでの取り組みであったり、社会情勢の変化なんかを踏まえて、これからの課題というのを26・27・28ページで記載しています。今も話にあった、人口減少の抑制をしていかなければというような話と、時代や社会の変化への対応をしっかりとしていかければというような話と、伊賀らしさを追求していきましょうという3つの課題を上げていますけれども、次代社会の変化への対応をしっかりしていこうという事で、Society5.0、それからSDGs、コロナなどに対して、しっかり対応していけるような体制を取る必要があります。それから次、30ページを開いて下さい。こちらは新しい計画をどうしていくかという事をまとめています。30ページでは今回の計画のテーマを掲げています。大きくいうと3つ。新たな日常とか新しい生活様式をしっかりと確立させて市政をより良くしていくという事と、どこからも選ばれる自治体になる。今住んでいるみんなでこの町を誇っていけるようなそんな伊賀市にしていくということと、それからみんなで、誰一人取り残さないという事と。みんなでやっていこう、そういった形で集大成となる第2次の総合計画にしていきたいなという風に思っています。32ページを開いて下さい。今の計画がどんな事を改善したかという事を書いているんですけども、基本的には今の計画、第2次の計画を総集していこうという事で、一部組み替えとか集約化とか行い、施策数の数とか基本事業の束ね方の数をあまり多いと進行管理する時になかなか理解してもらえるような大きさにならないかもという事で、集約化けをからせてもらいました。具体的には；各それぞれの具体的なシートを見ながら説明したいと思います。36ページと37ページを開いて下さい。分野別の施策を一覧にまとめたものになっています。7つの分野に分かれていまして、それを更に施策で言うと38本の施策があって、その施策の中に140の基本的な事業を掲げています。そういうような構成になっています。特に教育に関する分野では、37ページの上段の所、5番目の分野、教育人権の分野例えば、5-3で学校教育。5-4で教育環境。5-5で生涯学習。それから、ちょっととんで6-4で歴史・文化遺産。

次のページを開くとこの個所にどんな事が書いているかというような事を記載しています。次のページ以降が、具体的なそれぞれ分野ごとの施策を束ねたものです。教育・人権という分野の所を挙げさせてもらいます。98・99ページをご覧下さい。5-3学校教育の所です。シートの見方、左側のところに現状と課題を載せていて、右側にじゃあそれに対してどんな事に取り組んでいくかというような事をお伝えしています。例えばこの学校教育のとこだったら、左側のページの課題のとこに子供の貧困とか、コロナを踏まえた感染症とか危機への対応の事。それから、デジタル化の話、そういった課題を掲げていまして、右のページでは学力推進キャリア教育、学校マニフェスト、それからICTを積極的に活用しくということについて記載したり、下段のとこでも、児童生徒に支援という事で、スマートフォンとかが普及してきて、いじめというのも形が変わってきていて、SNSとかを中心したような内容に変わってきているというような事も踏まえた対応をしっかりしていくということをお伝えしています。それから次のページ100・101ページをご覧下さい。教育環境の事になります。適正な児童生徒数で学校運営を行うために校区再編を進めて行くとか、あるいは学校施設の長寿命化を計っていく。それからスクールバスの事についても記載をしてあります。あるいは美味しい給食についても書かれている。それから次のページ102・103ページをご覧下さい。生涯学習のところで、大きく言うと生涯学習と図書館と子どもの読書活動、それから青少年健全育成こういった、それぞれの地域で地域住民のニーズに合わせた生涯学習ができるようにしていくということであるとか、あるいは図書館のとこではＩＴ化の話とか、それから読み聞かせのグループ活動の中で一緒になりながら、サービスを充実させて行きましょうという事で、3番とも関連してくるんですけど、そういった読み聞かせのグループ活動へしっかりと支援していこうなど、112・113ページで6-4文化歴史遺産というところをまとめています。こでは従来、文化財の保護という事だけじゃなくて、しっかりそれを活用しながらまちづくりに活かしていくと、そういった事も必要やというような事で、学んでいきましょうという事で記載しています。それから、ちょっと飛んで最後の方。132ページ以降のところでここまではずっと各分野7つの分野に分けて取り組みをまとめてあるんですけれども、最近それぞれのセクションごとにしっかり取り組みというのも大事だけども、お互い連携して、しっかり取り組んでいくということもあるでしょうと言われています。そういうのはこの第4章という事で、もう一回再構築しているような構成になっています。それがいわゆる地方創生、まち・ひと・しごと創生という視点でまとめています。136ページご覧頂きたいと思います。そこから具体的に人口減少が進んでいく中で、歯止めをかけていくというような事、その間に何をしていく必要があるという事を書いています。先週にも市政調査の速報というのがありまして、伊賀市予想していた程の悪い結果にはなってなかったんですが、それでも人口減少が進んでいて、さっきも言わせてもらったように若年層の減りが急激になっているなという事もあって、その中で考えていくということで、136ページ以降で、4つ大きな柱を掲げていて、それを基本目標という形で表しているんですが、まずは誰もが希望を持って働くことができる。それから次が138ページで、安心して子どもを産み、育てることが出来る。それから3つ目が心豊かに暮らし続けることができる。それから4つ目が魅力を高め、にぎわいと交流を生み出す。こういった4つの目標を掲げて各セクション部局に分かれているけれども、予告示唆した目線で取り組みを進めていくというような事をやっています。141ページを見て頂きたいんです。計画の最後になりますけども。地方創生、人口減少の対策という目線でこの第4章肯定しています。特に視点として持つべきところというのを最後にまとめています。一つが多様な人材の活躍を進める。もう一つが新しい時代の流れを力にしていこう。この二つに力を入れていまして、特に伊賀市で伊賀流の従来を中心とした独自の実務をベースにしながら、あるいは外国人の方がたくさんいる、多文化の共生社会という、パートナーシップ宣誓制度など立てたり、とか、いろんな人権先進都市といったような伊賀市のいわゆる特徴を生かしてまちづくりを進めていくということと、それからEXとか難しい考え方というのをしっかり取り入れながら、最後、142ページ・143ページで第3章の分野別にいってそれぞれ取り組みをまとめたのと、第4章で予告示唆したのとの関連付けがどうなっているのかというのを一覧で見て頂けるようにまとめています。

今年の3月に教育委員会の方でも、教育大綱というのをおまとめ頂いたかと思うんですけれども、その中でも総合計画との関連付けというか、位置付けというような事を示しています。作って頂いた時は、まだこの第3次基本計画は案であったという事もあって、第2次の計画をある程度ベースにしながら構成の方を考えていたかと思うんですけれども、第3次が出来ましたので、新たにまた見直しというか、チェックというか、そんな事をまたお願いしたいと思いますのでよろしくお願いします。長くなりましたけど、説明は以上です。

事務局長：ありがとうございました。特に質問の時間を設けてないんですけれども、また皆さんご覧になって頂きまして、ご質問とか対応があるようでしたら私の方にでもおっしゃって頂きましたら、お答えをさせて頂きますのでよろしくお願い致します。それでは事項の2つ目でございます、GIGAスクール構想の現況につきまして、成和西小学校の藤山校長先生の方からご説明をお願いいたします。よろしくお願いします。

学校長：皆さんこんにちは。岡本市長、大森副市長、谷口教育長、教育委員をはじめとしまして、各部局の皆様方、本日は成和西小学校へようこそお越しいただきました。私は本校校長の藤山秀公と申します。どうぞよろしくお願いします。平素は本校の教育活動へのご指導、ご助言、ご支援を賜りまして、衷心より厚くお礼を申し上げます。本校での第1回総合教育会議の開催並びに、タブレットパソコンを活用した授業参観、スマイル給食等全教職員で皆さまの来校を楽しみにしておりました。特に授業参観では全ての学年、学級でタブレットPCを活用した授業をご覧頂く事になります。それぞれの授業で効果的にタブレットパソコンを使用し、特色のある授業を目指し、取り組んできています。限られた時間ではございますが、子ども達の活動の様子をゆっくりとご覧頂きたいと思います。本校の研究の取り組みの詳細につきましては、後程説明させて頂くとしまして、まずは本日の授業について紹介させて頂きます。前のモニターをご覧下さい。まず別紙に本日の授業計画という一覧、ペーパーを用意しましたので、後程移動して頂く時の参考にして頂きたいと思います。ここではもう少し詳しく噛み砕いて、それぞれの授業の説明、紹介をさせて頂きます。裏面には校舎の配置図がございますので、1階から3階の中で、基本的にはお好きなところをご参観頂けたらと思います。まず入口のちょうど、一番最初にあった教室が1年生の教室になります。1階です。こちらの方は担当者坂本という者が担当します。2年目の教師です。国語で、単元は、は・を・へを使おうという授業です。概要ですが、助詞の はをへ、これを使って使い方を理解して単語を作るという事でタブレットの活用場面ですが、言葉と助詞のカードの順番を並べ替えて短文を作る。あらかじめ教師がお膳立てしてあります。それを配信しながら子ども達がどうだろうかと、自分で文を作るという授業になります。子ども達が作った短文を設置されているこのモニターに提示して、それを見て音読して理解を深めるという授業になります。同じく1階奥の方になるんですが、2年生の教室になります。こちらは、ベテランの川口という者が担当します。教科は算数で、単元名は長さです。概要はセンチメートル、ミリメートルの単位、俗にいう換算をターゲットにしております。タブレットの活用場面ですが、まず、一番最初に物差し等を提示するという事で、長さの概念をまず子ども達にイメージさせてという事で、学習課題の提示の場面で使います。その後、一旦学習が展開されますが、最後のｅライブラリというソフトウェアを使いながらドリルの一種です。自分の難易度に応じた問題に挑戦して、いわゆる学習の定着を図るというものになります。続きまして、2階になります。このフロアの一番手前のところ、職員室の横になりますが3年生の教室では担当者井川という者が担当します。教科は算数。単元名は暗算です。概要ですが、複数個の品物を買う時の代金を暗算で計算させ、自分のやりやすい暗算の方法について考える。いくつかの商品があらかじめ用意されておりまして、そこから自分で好きな商品をピックアップする。じゃあ一体合計いくらになるでしょうかっていう授業です。100円100円の単位だったらすっぱり行くんですが、10円単位で繰り上がったり、色々工夫をする必要が出てきます。そこで、タブレットを活用する場面としては、ロイロノートという伊賀市の方で選定してもらったソフトウェアの一つですが、これを使って自分の考えを記入して教師に提出させます。提出された全員の意見をモニターに提示しながら、自分の考えを説明していくという考えを深める為にそういう設定をして学習を展開していきます。同じく2階です。4年生このフロアの一番奥の教室になります。こちらは今年初任者の越賀と言います。教科は社会をします。単元名はごみのしょりと活用という事になります。概要ですが昔と現在のごみの処理の違いから、伊賀市のごみの処理の方法がどうなっているのかを調べる方法を考えるという授業になります。このために、タブレットの画面ですが、導入の部分でいくつかの種類で、これ実は他市、他府県のデータもありまして、それを提示しながら伊賀市の方に収束していくというものですが、いくつかのごみを提示してクイズ形式で、昔と今のごみの処理の違いについて考えを深めるというものです。タブレットを有効に活用してそれを展開しようという事で、導入部分なのでここをご希望の方は先に言って頂くのが賢明だと思います。続きまして3階です。担当は山村といいます。本校で3年目の教師です。以前、ここでケーブルテレビの取材をして頂いた時は彼女の授業で算数だったんですけど、今回も算数を設定しております。単元名は図形の角を調べようという内容で、概要は四角形の4つの角の大きさは何度になるのか自分の考えをまとめ、問題解決を行っていきます。ここまで四角形の対角線は2つあるというところまで学習を進めております。単純に三角形が2つあったら360度いくのですが、対角線が2つの時はどうなのかという問いかけを仕組みまして問題解決を行っていくという学習になります。タブレットは頻繁に出てきますが、ロイロノートというソフトウェアを使いまして、提示された図形に自分の考えを記入して提出させます。子ども達自身のタブレットに自分の意見を記入するという事です。それを教師の方に提出して、それをモニターに提示しながら、また個々に説明をしていく。どうしてそうなのかという説明をしていくという授業になります。こちらにつきましては、ほぼすべての時間帯でタブレットが登場しているという状況になると思います。

6年生です。３階の奥の教室になります。こちらは中森という中堅の教師が担当します。教科は社会。単元名は天皇を中心とした政治という事で、概要なのですけど、古墳時代の建造物と比較することを通して、聖徳太子が行った政治について考えるという内容になります。タブレットは導入場面の所で設定しております。古墳時代と奈良時代の建造物。これを比較する、この画像を配信して、その画像についてペアで話し合いながら、変化を読み取っていく。時代時代でどのような違いがあるかという事で深い学びを追求しようというものになります。次にかがやき１です。３階へ行きますが、ちょうど、一番最初の教室がかがやき、特別支援学級です。担当者は谷口と言います。ベテランの教師です。教科は国語と算数という事で、二つの学年がありまして、二つを担当しています。国語はスイミー、算数は計算という事で、国語は漢字の練習、算数は筆算という事で、概要はそういう対応をします。タブレットの活用場面ですが、ロイロノートというものを使って漢字を記入する。絵を描くという事をしていく。これはあらかじめ担当教師の方が作成したものです。もう一つはeライブラリ、ドリルです。これを使って問題に挑戦して復習をするというものです。最後にご紹介させて頂きますのが、かがやき２。同じ教室で行います。３階です。ここは担当者稲森という中堅の教師になります。教科は算数。こちらはお金の数え方、九九の復習というこれをターゲットにしています。お金の模型を使って、品物の金額を見て買えるかを考える。これが一つです。そして、九九のカードを使って暗唱するという２段階の内容を考えております。タブレットの活用場面ですが、掛け算の筆算等の基本問題をeライブラリというドリル学習を使って、ドリル学習を行うという事です。すべての教室で、頻度の違いはあるかも知れませんが、このようにタブレットを活用するという事で設定させて頂いております。授業時間自体は10時45分から１１時半までですけど、皆さんの参観時間に関しましては約30分。１０時45分から、１１時１５分という事で、適当にご参観頂けたらと思います。私の方で案内させて頂きたいのは、３階に統一してますが、まず３階の一番奥が６年生。導入部分のところでのタブレットの使い方をご覧頂けたらと思います。続きまして、５年生。隣の教室になります。約１５分間程度で先程の四角形の角の算数の授業を見て頂けたらと、頻繁にタブレットを活用していると思います。最後に、その隣なんですが、かがやきの１・２。特別支援学級の方ですけども、５分程度でeライブラリとかドリル学習ここを中心に使っていくところを見て頂けるかなと思います。取りあえずこんなんですけども、ご自由に１階から３階まで見て頂けたら幸いです。

この後休憩して頂きまして、もし良ければ３階の６年生の教室に移動して頂きたいと思います。以上です。

学校教育課長：第１回伊賀市総合教育会議資料という事で、GIGAスクール構想の進捗状況についてという資料をご用意させてもらってございます。１ページの方には、伊賀市のめざすGIGAスクール構想という事で、ICT機器は先生が教えるための教具であるというこれまでの発想から、子ども達が主体的に学ぶための文房具の一つであるというような形で、ICT機器特にGIGAスクール構想においてはタブレットPCの使用について、視点を大きく変えながら新学習指導要領に基づいて主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を今後行っていきたいとう風に考えてございます。4月以降タブレットパソコンの方すべての小中学校の方に配置をさせてもらいまして、5月頃から教育委員会の方もそれぞれの学校を回りまして、どういった活用の仕方をしてるかなという風に回っております。下の方に具体例として書かせてもらってありますが、主にソフトとして入れさせてもらったロイロノート。今日もいくつかの学年で使用しておりますが、ロイロノートの活用。これがこれまでの授業スタイルを大事にしながら、ICTをうまく活用するための一つの授業支援ソフトという事で、ロイロノートの活用が多いようです。またeライブラリのドリル教材につきましても、特に中学校なんかでは、eライブラリを活用しながら、個々の学習頻度に応じた形での活用をして下さっていると、それぞれ行っていると。もう一つは、いわゆるZoomであるとか、Teamsという遠隔のやり取りを、例えば一迎会で行ったり、生徒総会で活用したりという風に活用の幅というのは、こちらが思っていた以上に各学校で今取り組みを進めてくれている実態がございます。２ページをご覧下さい。課題も何件かございまして、4月以降、7000台配らせて頂いたうち、この3ヶ月で7台ほどタブレットの破損がございます。やはり、落としてしまったりというようなことで何台か故障を聞いておるんですが、こちらの方については3年間の物損保障がついているという事で、現在無償で交換して頂いております。また家庭の通信環境の整備につきましては、こちらの把握しているところで、約1割の児童生徒の家庭に数通信環境がないという事で、Wi-Fiルーターの方を必要数整備しております。今後、家庭での活用にどう生かしていくかというあたりで、使い方ガイドライン等も作りながら、この1年間の中で家庭活用についても前進させていきたいと考えています。それから、やはり教師のスキルという事で今日も6つの教室、授業を見て頂くんですけれども、やはり得意な先生と、あまり得意ではない先生がどうしてもいらっしゃいます。そのあたりをここまでは全ての教員が出来るようにしようというあたりを目標に研修を昨年度来続けてきております。すでにもう10回研修会をさせてもらって、その様子をDVDに撮って、校内研修の方でそれを見ながら更に研修できる体制を整えているという状況です。ただ、市としてはここまで全ての教員がという事で、昨年度から研修を進めているんですが、やはり優れた活用の方法をいかに市全体に、市の先生方全体に広げていくかというのも今後の課題の一つだと思っております。それと、反面では実際に使ってみますと、色んなところで不具合が出てくるところもございます。Wi-Fi環境については、しっかりしたものを整えて頂きましたので、こちらの方でうまくつながらないという事は、聞かせてもらってないですが、やはり実際には教室だけではなくて、体育館の方にもWi-Fi環境を整備して欲しいというような学校からの要望もあります。体育の授業等でもタブレットの方を積極的に活用して下さっているというような状況も聞かせてもらっています。そういった事で、今年度から導入しましたタブレット端末でございますが、今年度についてはそれぞれの学校で、とにかくいろんな場面で活用してもらって、こんな使い方ができたよ、こんな効果があったよというあたりを1年間で集約して参りたいと考えております。それをもとに2年目、令和4年度については実際に授業改革にどう生かしていくか、そして、3年目につきましては、一定の見直しをしながら、伊賀市としてのGIGAスクール構想を新たなものに進めていきたいと、そんな計画で考えてございます。2ページの下、5番以降は、教職員の研修等書かせてもらってあります。3ページです。今日も成和西小学校さんの方に来て頂いたのですが、伊賀市タブレットPC活用推進プロジェクトとしまして、緑ヶ丘中学校、成和西小学校、上野東小学校この3校を推進校に指定しまして、伊賀市のタブレットを活用したICT教育を先進的に引っ張って頂くと、先行実践をして頂くという事で、その学校の本校その一つとなってございます。東京学芸大学の森本先生をアドバイザーに添えまして、今度７月１、２日に伊賀市に来て頂いて具体的なご指導をいただくんですけれども、伊賀市全体の底上げを目指して、この３校にまずは先行実践をしていって頂こうという考えでございます。なお４ページ以降は資料となっております。６月号の広報いがの方に取り上げて頂きました。伊賀市のGIGAスクール構想の様子。それから７ページ以降は、成和西小学校の写真もあるんですけれども、それぞれの教室、学校でどのような形でタブレットが使われているかというような事のお写真を載せさせてもらってございますので、またご覧頂ければと思います。以上でございます。

　【すべての教室の授業を参観した】

事務局長：皆さんお疲れ様でした。今から50分位で今見て頂いた感想なり、何かご意見等ございましたら、ご自由に発言頂きたいのですが。

教育長：こうやってタブレットを4月の17日から使い始めて、ほぼ2ヶ月です。２ヶ月で子ども達１年生から６年生まで使って頂いて、もうあって当たり前みたいに使ってもらっているし、先生方もうまく、いつ配信するかとか、上手にやっているので、たった２ヶ月でしたけど、この２ヶ月だいぶ濃い中身で進めてもらってるな、うまく使ってるなと、見せてもらって思いました。多分、もっと色々研究していったら効率よく出来る部分と、いやこれもう使わん方がいいでという部分があると思うんですけど、考えるように使っているという風に感じます。

教育委員：先程、市長さんの話の中にもあったんですけれども、私らが小学校の頃というのは先生の授業を聞いて、書いてという形で何を言うてるのかな、眠たいなというような感じでした。今、子ども達の様子見ながら、こうゆう風な授業してもらえていたら、あー出来るわとか、分かるわというのが、何て言うたらいいのか、興味が持てるというか、ひらめき持てるし、もっと勉強したいなという気持ちになれるの違うかなと思って、子ども達の可能性を引き伸ばすのには、とってもいいツールかなというのは感じさせてもらいました。実は私もパソコンを使う仕事をしているんですけども、漢字を忘れてしまっている。年齢的なものもあるんですけども、漢字が書けなかったりとかもあるので、そういうのも使いながら、文章も書けて読めて、どんどん使っていってもらいたいなと思いました。

教育委員：この同じ時間にみんながタブレットを使うというのは本当はあり得ない事だと思うんです。私たちの見学のために、このような時間を作って下さったし、そのような授業を用意して下さったんだと思うんです。きっと小さな子ども達、低学年の子ども達は、使うことに馴れさせるための授業をまずしていかないといけないんだなというのを見学させて頂いてよく分かりました。学年が上がれば上がるほど、それをいかに利用できる可能性がどんどん能力と共に上がっていくんだなという事も、色んな学年を見せて頂いたからこそ、よく分かりました。先程教育長もおっしゃって頂いたように、これからは使い方の選別をしていかなければならない。この新しいツールが持つ可能性というのは、ものすごく広いと、それ以外に、授業の中ででも全体を見渡す。例えば自分を作成、自分を客観視する。思ってなかったような可能性がまだまだあるという風に、可能性を感じました。

教育委員：皆さんが言われるとおり、タブレットを使った方が効果的な授業と、別に紙資料でもこれはいいんじゃないか、余計タブレットを使った方が時間掛かるんじゃないかというのもあるので、そのあたりを精査して頂けたらと思います。あとは、他の子が何を、どういった意見を持っているかというのが共有できるっていうのはすごくいい事だなと思うので、昔の授業でいったら、「はい、はい、はい先生こう思います」と言ったのを聞いてるか、聞いてないか。図形とかで、Ｋ君はこんな考えを持っているんだというのが非常に勉強になります。

教育委員：とにかく授業見ていると、子ども達みんながものすごく楽しんでいる。みんなが参加できる授業になっている。だから、楽しいんでしょうね。今までの子ども達と違う子ども達が多分生まれてくると思うんです。だから、ものすごく可能性がある。コロナによって、あるいは世の中が変わっていくように非常に嬉しく思います。多分色んな問題が出てくると思うが、それをうまくいい風にしたっていったら、新しい授業、新しい勉強の仕方が発見できると思うんです。だから、どんどんそっちの方に進んでもらいたい。新しい子ども達が生まれて、新しい発想が生まれる可能性がものすごくある。たまたまここへ来る前に、大リーグ見ていて、大谷君ホームラン打ちました。あの子なんか見ていると、別次元です。こんなん出来ないという事、彼は実際やっていますよね。だから、あんなような人が、多分田舎の子ども達であっても、GIGAスクールによって、町の子も、田舎の子も発想が変わってくると思う。多分、可能性がある器具という風に感じました。以上です。

教育委員：タブレットの話ですけど、これ2、3年前かな、急に国からGIGA

スクール構想といわれて、全国一律でという事で、事務局は大変困って、急にこうなったという事で、こんなに早く進むとは思わなかったけど、私は予算の要求から、査定までずっと2年間見せてもらいました。そういう意味で今日は大変楽しみして見せてもらったんですけど。成和西、小規模校で今見せてもらったら、だいたい15人ぐらいおって、少なかったら8人ぐらいで、そういう中で、お互いに身近な関係で、先生方も目の届く範囲に居るんで、学習効果も高いと思います。先程も話ありましたように、全ての教材がタブレットを使うんじゃなくて、当然これはタブレットやめた方がいいよっていうこともあると思うのでうまく利用して頂くような形で使って頂くのがこれからの課題だと思います。今後どうなるかやってみないと分からないことなので、先生方が残業ないやり方で長く続くよう検討いただきたいと思います。

教育長：今こうやって、だいたい8億円掛けして頂いて、急に色んなところにご苦労頂いて、学校としても校長先生方にお金も掛かっているし、学力を上げなければというのが今の命題になっていて、何とか学力の色んな面で活用していきたいというのが教育委員会含め、学校の思いなんです。急に進んだ事もあって、保護者の方としては、持ち帰りはどうやろとか、もっとネットで配信して欲しいとか色々な要望があります。実は、今は、ネットで配信とかできてないんです。というのは、先生の顔映って送っているだけなら別にいいんですけど、他の子ども達の様子も映ってしまう。そこで、個人の肖像権や個人情報の部分があります。それから、例えば部活だと勝ち負けのある試合でしたら、勝った方はいいですけど、負けた方も出てしまう、それがまたネットに流されたらどうしようかという事で、色々ルールを決めないと、次の色々課題が出てくるので、そのルールを決めて色んな配信をしていくという事をしていかないと、入ったから家でももう見れるだろ、入ったからもっと簡単に送ってと保護者の方はそういう風に思いがちなんですけど、色々そこには難しい事も法律の事もありなかなか学校としては安易に家で見れますよとは、いきません。そこのところを、ルールをきちっと決めて使わせていかないと、子どもは持ち帰ったらやっぱりネットにつないで色んなもの見ますので、制限掛けてあっても見るので、そこら辺をもうちょっと子どもにも指導して、それから時間をきちっと決めたり、指導して使わせていくという事が必要かなと思っています。そこら辺のルールを早急に決めて配信していく必要があります。

学校教育課長：教科書も、今のところは教科書があって、指導集があって、タブレットがあってと、机の上はせまいぐらいになっていますけど、これいずれ教科書もデジタルになるかもこれは分かりません。それもまだはっきり決まってないので、急に色々入って来だした部分もあって、これからの課題だと思います。

事務局長：そしたら校長先生、学校の取組とかご紹介頂けるようでしたらお願いいたしします。

学校長：それでは、今お褒めの言葉、激励の言葉、あと課題も頂きました。貴重なご意見頂きまして、本当にありがとうございます。すべての職員に先程の見て頂いた中にも色んなお言葉頂きました。激励も含めて今後の本校の新たな第一歩を踏み出す貴重な機会にさせて頂きたいと思います。本当にありがとうございます。

それでは前の方モニターをご覧下さい。タブレットパソコンを活用した授業実践という事で、少し本校の取組をまとめましたので説明させて頂きたいと思います。今から説明させて頂くのは、5つの柱になります。学校教育目標、児童の課題、3つの仮説と研究テーマ、それとタブレットPCを活用した実践という事で、今日以外の要素のところ、それと今後の予定についても含めてさせて頂きます。まずは学校教育目標です。本校の学校教育目標は、子ども達が夢と希望を持って学び、失敗をおそれないで挑戦する意欲を育て、子どもたちの可能性を引き出す学校づくりという風に設定しております。私のキーワードとしましては、夢・希望・挑戦というのを3つの柱で学校教育目標を作っております。目指す子ども像なんですけど、自ら学ぶ力を身に付け、互いにつながり合おうとする子ども。2つ目に、自分も仲間も大切にし、人とのつながりを深めようとする子ども。自分の目標を持ち、より良い生活や学校をめざして自主的に行動する子どもという事で、伊賀市が提示しています3本柱、学力・人権・キャリアを3つの柱として構成しております。本校の具体的な子どもの姿として、成和西にちなみまして、**せ**っせと遊ぶ子ども。**い**いところを見つける子。**わ**かるまで勉強する子。**に**こにこあいさつする子。**し**っかり掃除をする子。という事でキャッチフレーズを作って、日々の実践活動に取組んでおります。そこで主に学力面でというか生活面と含めての児童の課題をこのようにまとめております。まず、学習習慣の定着が不十分という事です。2つ目に、基礎学力の定着度に差が見られるという事で学力差がクラスによってあります。今も見て頂いたところで気付かれた方もいると思います。3つ目に、学習に対しての意欲が意外に低いという事が挙げられています。4つ目に、ペア・グループでの活動における他者との関わり方に課題があると、うまく機能しない事が見られたという事です。5つ目に、学習規律が身についていない児童がいるという事です。時間行動とかなかなか課題があるという事が挙げられています。6つ目に、保護者への啓発が出来ていない。保護者の、いわゆる家での家庭学習の習慣等がちょっと不十分だというような事が挙げられております。この6つが、主な課題としてまとめております。それで、これを克服すべき3つの仮説と研究テーマというのを本校たてました。まず、仮設1です。子どもたちの学びを保障するという事で、豊かな人間関係を築き、子ども達が自分の夢に向かって歩み続ける事ができるのではないかという事です。学びを保障する。2つ目に、授業の場面にあったICT機器の取り入れ方を模索して、積極的に授業に取り入れる事でより豊かな学びが創造できるのではないかと、今まではICT機器以外の場面であったのですが、今回はICT機器をいかにという事で、大きなテーマとして、仮説2に設定しました。仮説3ですが、研修組織の在り方自体をもう一度見直して、子どもたちの課題に即したような豊かな実践活動。例えば、階段のところに気付かれた何人かの方に言って頂きました、九九とか単位の換算とか、あっ、こんなのしているのかって言って頂いたんですが、あれもその一環の一つです。それで、仮設1を実現するために考えた取組が、まず一つ目、成和西学びのスタンダードの定着です。学びのスタンダード。つまり、全ての学級で授業スタイルを一つ統一しております。その中で、大切にすべきポイントはここだという、これだけは絶対除いてはだめだという部分を、全ての学級で必ず入れるというのをまず一つ。二つ目に、ICT機器の実践交流。これも4月からかなりのペースでうちは進めております。2週に１回校内研修やるのですが、必ずそこでは全ての教師に実践事例。実践したICT機器を使った実践をここで報告して交流するっていう事を必ずしています。三つ目に、研究授業実施。小規模校ならではかも知れませんが全教職員が一回以上、必ず研究授業をしております。そこに木村教育アドバイザーとかもかんで、厳しいご意見を、的確な指示を頂くという事で進めております。これが、仮設1についてです。

次、仮説2についてです。こちらの方は、ひとり1台パソコンの効果的な活用についての研修を必須としております。学びの接着剤としてのICT機器。森本教授もWith　ICTと、いかにこの接着剤の役割りをして、いわゆる深い学びをするのか、子どもと子どもを繋げるのか、教材といかに結び付けていくのか、今まで既習の事項とどのように機能していくのか、そういうところを含めて、ICT機器を活用するっていうのがこの仮説2の克服の部分です。

仮説3としましては、研修組織を見直して構築、運用しようという事で、研修・ICT・人権・環境という風な、4つの組織をこの小規模ながら分類しまして、それぞれの組織で原案を作って、そして交流して、良ければ実践していくというような組織を今年新たに構築しました。そこで本年度の研究テーマをこのように設定しました。協同的な学びが支える、安心して学ぶことが出きる学校づくり。サブテーマとして、ICT機器の効果的な活用による深い学びの創造を目指してという事で、これを研究テーマにして、先程、教育長もおっしゃっていました、学力向上をいかに図っていくか、興味関心を高めるかというところを追求しようという事で研究を進めています。そこでタブレットPCを活用した授業実践を紹介させて頂きます。例えば、広報にも載せて頂きました、1年生の生活科の学校の先生の仕事についてというテーマです。これは動画で子ども達が私たちのインタビューを撮影しまして、その時だけじゃなくって、帰ってから動画を見ながら、掘り起こす。もう一度、何を言ったのかなと確認しながら、言葉の習得。色々意見感想を深めていくっていう授業で活用しています。1年生についての算数科です。これは担任が動物の絵を、あらかじめロイロノートで撮影して子ども達に配信します。イメージはもう持っていただいたと思うのですが、前から何番目、後ろから何番目の動物は何っていう風な問いかけをしながら活用するっていう事です。前に提出して、どうなのという説明にこれを加えてしていくというこういうような活用事例です。

2年生でのeライブラリ。先程2年生終わっている状況もあったんですけど、要はこんなドリルのものがありまして、これに難易度、ABCみたいなランクがありまして、自分に応じた難易度を選んだうえで学習の内容を復習していく、そういうeライブラリというものです。

これは3年生です。国語で、言葉であそぼうというとこなんですが、例えば教科書の画像を皆さんに送ります。普通教科書に書き込んでしまうと、消したり、色々難しい状況あるのですが、ロイロノートだったら、書いてもすぐ消せる。意見の修正もできるという事で、2つの問いに対する答えについて、赤と青の線を引くように指示して提出させたところです。これについて、前に出てきて、僕は、ここは、こう思うんだけど。ここはこうなんだけれどっていう説明をしていくような形で、自由に直線とかも引けるので、すごく手軽にこのような作業ができるという事で活用しております。

4年生です。こちらは国体ののぼり旗の制作風景です。ロイロノートを再び活用しまして、これを一応皆さんに送ると、ここでもう昔だったら紙でやると思うんですけど、ロイロノートの機能を使って、絵を描いたり、文字を打ったりと、ウェブから落としてきた画像を貼り付けたり、そういう事でデザインを投票して決定します。その後、決まったデザインをタブレットで見ながら、実際ののぼり旗を作成して、ここは北海道が担当だったんですけど、こういう風な作成で活用した事例として挙げさせてもらいました。

これは5年生のコラージュを使用というところで活用しました。これ分かるでしょうか。自分たちの絵を撮って、ワードっていうソフトウェアを皆さんご存じなのですけど、あれで自分を切り取って、これ靴箱の中です。靴箱の中に自分達をいれるという、まさにコラージュの作品ですよね。自分が小人になって、木の根っこのところで、ここに隠れているっていうそういう場面を描写した使い方です。こちらは英語科での活用事例です。5年生です。絵とか文字でシートに書き込みます。こちらの方は、英語で何が欲しいですか？と聞いたら、家が欲しいとこの子は答えたという事で、そのシートをここで紹介させてもらうのですが、それぞれが作成したシートを、タブレットを持って、どうなの、ああなのという会話の練習を積んでいくと。という事で、固定されたポジションじゃなくて、色んな人と交流がここで図れるという、そういう効果的な活用事例としてここで紹介させてもらいました。

ここでは、6年生の物の燃え方と煙の働きという事です。要は実験の動画をここで作成するんです。普通だったら、私たちの時代には記録する係、動画の係とか色々役割分担あったと思うんです。ところが、自分の仕事があったら、例えば時計を計っていたら、自分のことに専念してしまって、この中が中々、見れません。ところが、タブレットに撮ることによって、後からどんな様子だったかというのは、全員で共有できる。もう一度見てみよう。さっきどうだったのか。そういうところで非常に効果的に活用ができるっていうことで、ここで紹介させて頂きました。

あと、学活でも活用事例があります。係り活動でどんな事がっていう事で、ちょっと調べるアンケートを作成するのですが、ロイロノートではアンケート機能というのもあって、アンケートを作ったら配信します。配信してすぐ解答するのです。解答したらこのようにすぐに集計結果が出るというこうゆう機能もあります。本当に、紙だったら書いて印刷して、その手間全くいらないので、かがやき学級。特別支援学級では、もう絶えずこのタブレットを肌身離さず外に持ち出して、このように植物の観察。育て方を調べたり、成長を記録するという事で活用しております。

という事で、有効戦術は色んなものがあります。授業への集中力が向上した。意見が出しやすくなった。学力向上につながっている。学習への意欲が向上。意見交流が活発に行える。論理的指導を培うための有効なツール。文房具のように自然に活用できている。深い学びの学習に効果的。という事で、メリットは非常にたくさん。この数ケ月なんですけど、非常に多くのメリットが確認されております。

最後に、今後の予定について、宣伝もかねてチラシを入れさせて頂きました。GIGAスクール特別講座君も宇宙へというものです。星出彰彦さん、宇宙飛行士の話しなのですが、本校で来週の今日です。親子で参加するタブレットパソコンを使ったイベントを開催する事にしました。私が呼び掛けました。時間は今日ぐらいに明らかになると思います。17時から19時の間の45分間配信されます。星出さんからのYouTubeでの動画というか、リアルタイムになります。各教室で行います。対象は4～6年の児童および保護者も呼んであります。今のところ34名の参加者が得られております。テーマ宇宙での水や食べ物の動き方と食事の仕方という事で、星出宇宙飛行士から、宇宙からのライブ中継で実演を交えたお話を聞いて、それに対して参加者はアンケートで解答したりメッセージを送ったりするというそういう取り組みです。

という事で、夢・希望・挑戦をキーワードにした学校教育目標の道付けに向けて今後とも今日の意見も参考にして、全教職員で取り組みを推進していきたいと考えております。今後ともご指導よろしくお願いします。ありがとうございました。

事務局長：ありがとうございました。それでは3項目に入らせて頂きます。

学校給食に使用する地域食材の活用につきまして、産業振興部の堀次長からご説明頂きたいと思います。

産業振興部次長：産業振興部の堀と申します。どうぞよろしくお願い致します。

本当に学びを子ども達が非常に頑張っている授業を見たり、先程、校長先生からタブレットの活用の有意義というのを聞かせて頂きながら、ペーパーですいません。それと、美味しい給食が待っていますので、端的に説明させて頂き終わらせて頂きたいと思っています。

昨年からいがスマイル給食の実施という事で、委員の皆さん、ほとんどの皆さんが、説明聞くよりも分かっているというような内容ですが、まず昨年度。令和2年度の取り組みについてまとめてきました。概要が昨年9月から3月、月1回の実施という事で、予算額ですが1,323万円予算ついておりましたが、食材の事ですので、執行が12,715,324円という事になっております。それぞれのいがっこ給食センター夢とか、いがっこ給食センター元気、または自己方式でお使いになられた月別のものが資料1として付けてございますので、またご覧ください。その他としましては、小中学校で食育の教育用教材としまして、伊賀産食材、ここに書いています（伊賀米・伊賀牛・白鳳梨・アスパラガス）のDVDを作成しましたので、その提供もさせて頂きました。評価としましては、いい事しか書いてございませんが、児童、生徒、保護者から非常に好評であった。美味しいという事と、また食育、伊賀産食材の地産地消を進めるうえで、児童生徒に実際に食べてもらう事で、伊賀産食材の良さ。伊賀産にもこんなのあるんだなというのを知ってくれる事があったという事と、美味しさというのも感じてもらえたという事です。そうして取り組んだ中で、課題としまして、私共、伊賀牛を伊賀のブランドという事で誇りにしております。伊賀肉中心の献立となって、地元野菜等の利用が少なかった。これは学校の給食の担当の方ともっと話をしなければならなかったかなという事とか、地元産の野菜の調達において、調達可能な食材が少なかった。また毎月同時期でいがスマイル給食実施という事で、JAが主に食材を供給しているんですけど、数量確保等で苦労しました。という事のこの課題について、令和3年度の取り組みという事を考えました。もう進めておりますが、実施期間は令和3年4月から令和4年の3月。1年の中で月1回から2回は実施したい。これ先程も言っておりましたが、伊賀肉を使うとちょっと単価が高いので、その回数をちょっと少なめにして、それを予算の配分ですけど、他の食材に使っていって2回とかにしていったらどうかという事を考えております。当初予算額が20,995,200円。ちょっと上の予算からだいぶ増えているように見えますが、実は上は7ヶ月ででして、実際に力を入れていただいてるかと思うんですけど、1年間通しますと昨年度の方が2,268万円ぐらいありまして、92.57％の予算になっております。その中でも、知恵を使いながら、また気軽に使える食材等も探しまして、やっていきたいと思っております。主な取り組みでございますが、先程も言っております、伊賀の肉を中心の献立となって、地元野菜等の利用が少ないという課題に対しまして、JAより調達可能な地元野菜って何やろうっていうので、資料2をご覧頂けたらと思うんですけれども。今日はアスパラガスが使われるということなんですが、なばな・トマト・ミニトマト。これ基本的に黒く塗ってあるのが、多く生産いというところ。ちょっと薄いのが、始まりであったり、終わりであったり、というところになっております。こういう目安の価格表をJAの方からも出して頂きまして、色々調整をしていきたいと考えております。また、同時期にいがスマイル給食の複数回を開催して、地元野菜の利用頻度を増やしていきたいという事です。また、地元には、豚肉、鶏卵とかもありますので、そういうのも利用していきたいと考えております。課題の2つ目です。地元産野菜の調達において、調達可能な食材が少なかったというところで、先程の野菜の季節表に加えまして、いちごとかぶどうとか、鞆田在来の大豆等の利用をできるように調達していきたいと考えております。課題3としまして、毎月同時期でのいがスマイル給食の実施により、ＪＡの伊賀産食材の数量確保等で苦慮したという課題に対しまして、同じ日に伊賀市全域でというのも、これもまたお話していかんなんですけども。ちょっと分散をしていけないかというところについても、実施していきたいと考えています。また、JAでの数量確保、また配達業務の円滑化というのをやっていって、何とか多く使って頂けるようにしていきます。つぎ、裏面見て頂きたいんですが、給食レシピの公開という事で、私共は子供らに地元食材を使った給食を食べて頂く、また、こんな伊賀の食べ物あるよって、子どもらだけじゃなくって、家庭でも作って頂いて、家での会話、自分やおじいちゃん、おばあちゃんが、これ、うちでも作っとるわというようなそういう話に出来るようにという事で、資料3をご覧頂きたいんですが、ホームページで、また学校でも紹介していてると思うんですが、ホームページでレシピを公開しております。その一部を付けてございます。ホームページの次見て頂きますと、伊賀牛丼というところで食材1人分の牛肉というところの横にニコニコマークがありまして、このマークがついているのが伊賀産の食材ですというふうにしております。ホームページにはその記載がなかったので、昨日変えております。

あと、小中学校での食育に関する授業の実施という事で、昨年度提供しております動画DVDを活用して生徒に皆さんに食育、地産地消に関する授業を実施して頂くという事で進めております。私共、産業振興部としましては、食育というテーマの中で、本年、食育基本計画を伊賀市も取り組んでいきたいという事で、検討しております。食育だけじゃなく、食の肉と言いますか、こうやって作るんやでという、先程も先生に見せて頂いたように、タブレットで写真撮って、成長を見るっていう元は自分らで作っていくというところですね。米作りで言いますと、米は植えて次、刈ったらいいじゃなくて、まずは田の準備をしていかんなん。水はいつ入る。苗はどうやって準備をするんや。これがやっぱり、これからの生きる力として大事だと思っておりますし、本当に先程の授業見せて頂いたら、そういうところもちゃんと忘れず、基本において進めているので、すごく今、子どもって羨ましいなと思っております。

産業振興部農林振興課としても、この授業、本当に体、心を作る、伊賀のスマイル給食になっていったらなと思っておりますので、皆さんもご協力の程よろしくお願い致します。以上です。

事務局長：本日はありがとうございました。

それでは、以上で協議事項を終了させて頂きます。

皆さま方から何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、今日頂きましたご意見をふまえまして、引き続き事業を進めてまいります。これからも、ご指導頂きますようよろしくお願い致します。

以上で第１回伊賀市総合教育会議を終了させて頂きます。

どうもありがとうございました。